『人生とは唯一度なるものである』

～一回しか無い人生を如何に生きるべきか～

税理士法人TACT高井法博会計事務所
TACTグループ関連十二社 代表
税理士　髙井法博

新年をお迎えになられ、益々皆様にはご隆盛のこととお慶び申しあげます。

さて、私ごとで恐縮だが、昨年十月末に、義母が米寿（八十八歳）で大往生した。

義母は、飛騨高山で仏具職人の義父と穏やかな生活を送っていた。義父が他界した後は私が三十歳で脱サラし会計事務所を開業、長女を背に乳飲み児の次女を抱え、必死に事業を軌道に乗せようと悪戦苦闘している私達を手伝ってくれた。創業間際の事務所併設の自宅で、私達の食事や来客のお茶の接遇、三人の子供達の世話を中学を出る迄はと言って、約十八年間高山と岐阜を行き来し、義父の月命日を除き月の半分は、私達を助けてくれた。

その後は、高山で穏やかに生活していたが、寄る年波には勝てず、一人暮らしが心配になり、岐阜に呼び寄せしばらく一緒に生活したが、平成十七年、妻の入院手術を期に岐阜のグループホームに亡くなる直前まで入居した。最期は、三人の子供と三人の孫に囲まれて穏やかに旅立って行った。告別式の時、三人の子供が義母への手紙の中に「おばあちゃんは、私達姉妹にとって単なるおばあちゃんではなく、二人目のお母さんです。今まで一杯ありがとう。おばあちゃんの孫になって私達は幸せです。本当にお疲れさまでした。これからも、ずっとずっと大好きです。」と記した。

事務所の創業時代から事務所の発展を心から望み、バックアップをしてくれた恩人の一人であった。その生き様は、正直で誠実で控え目で、陰で朝早くから夜遅くまで黙々と他人が喜ぶことを行う文字通り「利他」の精神を持った人であった。「多くの人にご迷惑をかけないように」との遺言通り、飛騨高山の菩提寺で身内だけの家族葬で送った。これで私達夫婦は共に両親を亡くしたこととなる。誰もが人の死に直面しながら、それは他人のことだと深く考えないで、また考えても日常の忙しさに、取り紛れてすぐ忘れてしまう。

中学生の頃、実家のお寺の一室で思った。人生五十年と言うがその四分の一を過ごしたことになる。このまま行くとすぐ二十歳、五十歳となりあっと言う間に人生が終わる。死んだ後はどうなるのか？自分の祖父も祖母も私の物心付く前に亡くなっている。身近な人ですらこうであり、悠久の歴史の中ではまさに、お寺の真中の部屋の天窓から差す光の中の塵埃の如きものではないか、「あぁ、俺もいずれ死ぬのだ、死にたくない。」と涙がとめどなく流れた少年時代を思い出した。

一．「人生とは唯一度なるものである」

この言葉は、人生の師の一人TKC創設者、飯塚毅先生から教えていただいた西南ドイツ学派の哲学者ヴィンデルバンドの「哲学入門」の中の言葉である。蜀山人は「いままでは、他人のことだと思いしに、おれが死ぬとは、こりゃたまらん」と詠んだ。「誰の人生もたった一回しかない」。ならばどのような生き方をすべきか？私の心の中では避けては通れない命題であった。数多くの出逢いの中で、何人かの人生の師からいただいた「言葉」。その「生き方」の中から、そのいくつかを挙げると、「情熱を持って万事に没頭せよ」「全力をかけて瞬間瞬間を生きて行け」「自我を脱却し正しいことをせよ」「明るく、元気に、素直な生き方を。」「成功するまでやり続ける」「一生青春、一生勉強」等々、一度しかない人生を如何に生きるべきかの要諦を教えていただいている。

二．正しい行動の選択をするために

多くの人達は、こういった話を聞き、読み、知識としては持っている。しかし、自分の行動選択に当たって、勉強した正しい判断基準に基づいた行動を選択していない。

先頃、大阪地検特捜部の郵便料金不正事件の裁判で露呈した証拠改ざん、隠ぺいに走った主任検事は、特捜のエースと言われていたそうである。懸命に勉強し、一流大学法学部に入り、難関の司法試験に合格するために眠る時間も惜しみ勉強に励んだ筈である。検事になって将来を嘱望され、社会的にも国民のためにも奮闘してきた筈である。しかし、襲ってきた事象に対し、一瞬の誤った判断が、その人のそれまでの猛烈な精進努力の人生を一瞬にして台なしにしてしまう。多くの人がこのような勿体ない誤りを犯す。こうならないためには、どのようにしたら良いか？

『徹底的に高い思想・生き方を真剣に繰り返し、繰り返し勉強することである。』

当社では創業以来、経営計画の作成や月次決算の重要性と共に、素晴らしい経営者・思想家・様々な業界の成功者を招き、これでもか！と言う程の勉強会を開催している。

何事も「素直」に受け止め勉強し、実践に移す経営をしておられる経営者は、この厳しい経済状況の中でも利益を計上しておられる。そうでない経営者は、勉強会への出席率は極めて悪い。また、最初は出ても、その話は聞いたといつしか出席しなくなる。知識は得ても、一瞬の重要な時にあるべき判断のできる、ソフトウェアができるまで、更にそのメンテナンスのために、勉強し続けなければならないことを理解していない。「勉強する経営者は伸びる」「勉強は坂道で車を押すようなものである」「油断をするとすぐ、元に戻ってしまう」とつくづく思う。

今年もまだまだ厳しい経済情勢が予想されますが、勉強を重ねられ素晴らしい業績を納められます事を祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。